

これまでの宿題事項について

入院料

宿題1 入院料にはどのような費用が包括して評価されているのか。

(11月6日 嘉山委員)

入院基本料は入院の際に行われる基本的な医学管理、看護、療養環境の提供を含む一連の費用を評価したもので、簡単な検査、処置等の費用を含む。なお、療養病床の入院基本料については、その他の入院基本料の範囲に加え、検査、投薬、注射及び簡単な処置等の費用が含まれている。

集中治療、回復期リハビリテーション、亜急性期入院医療等の特定の機能を有する病棟又は病床に入院した場合に算定する点数については、入院基本料の範囲に加え、検査、投薬、注射、処置等の費用が含まれている。

また、入院料にはキャピタルコストに当たる部分の一部を含む。(参考資料P1~2)

宿題 2 入院医療費を診療科別に分析することは可能か。

(11月6日 嘉山委員)

現時点では、以下の通り傷病分類別に分析することが可能であるが、内科・外科等の部門別に分析することはできない。

1 社会医療診療行為別調査では、病院における診療科別の集計はできないが、傷病別(中分類)であれば集計が可能である。

1 日当たりの傷病分類別(中分類)入院医療費においては、約10,000～70,000円と幅があり、そのばらつきの大きさに最も影響しているのは「手術」である。腎不全、悪性新生物等においては「処置」、「注射」が比較的大きな割合を占めている。

「入院料等」による医療費は約10,000～18,000円と比較的ばらつきが小さい。(参考資料P3～5)

1件当たりの傷病分類別(中分類)入院医療費においても同様に、概ね約200,000円～600,000円と幅がある。白血病においては1,100,000円である。1件当たりの医療費の差の大きさに最も影響している項目は手術である。心臓の先天奇形、虚血性心疾患、白内障、白血病などで手術による医療費が大きい。(参考資料P6～7)

2 また、中央社会保険医療協議会診療報酬調査専門組織・医療機関のコスト調査分科会「平成20年度医療機関の部門別収支に関する調査報告」において、病床区分が主に一般病床で構成されているDPC対象病院・DPC準備病院における調査に基づいて病院診療科群別の収支の分析を行っているが、いずれの診療科群においても、外来医療は不採算であった。入院医療については、眼科群、外科群、産婦人科群において収支差額が大きかった。入院医療の収支率は、眼科が46.0%と非常に大きく、精神科群における収支率が-21.5%と、小さかった。(参考資料P8～16)

なお、上記調査は経営規模やDPC採用の有無に左右されない、可能な限り多様な医療機関のデータを用いることができるよう、調査の簡素化の手法について検討中である。

宿題3 病床数あたりの医療従事者の国際比較することは可能か。

(11月6日 嘉山委員)

病床数あたりの職員数を比較すると、職員数全体、医師数、看護師数いずれにおいてもG7諸国と比較して最も少なく、それぞれ病床あたり0.96人、0.15人、0.67人である。薬剤師数については、日本はドイツに次いで少なく、病床あたり0.1人である。(参考資料P17~21)